

# 2022年3月期 第2四半期 決算概況

2021年11月16日

株式会社 J-オイルミルズ

問い合わせ先:

コーポレートコミュニケーション部 Tel.03-5148-7101

# Agenda

1

2021年度2Q 決算概況

2

2021年度 業績予想および重点取組み

3

参考資料

# 2021年度上期 連結業績概要

## 2021年度上期業績

(億円)	前期	当期	前年比	上期予想	予想比
売上高	783.2	940.6	+20.1%	940.0	+0.1%
営業利益	27.9	0.6	▲97.9%	0.0	-
経常利益	29.5	2.3	▲92.2%	1.3	+77.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	21.2	7.7	▲63.8%	9.6	▲20.0%

### ■ 決算のポイント

対前年	売上高	+	油脂製品の価格改定とミール価格の上昇により売上高増加
		+	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け市場が大きく減退した翌年にあたるため業務用の販売数量増加
		-	競争環境の激化により家庭用の販売数量減少
		-	「収益認識に関する会計基準」の適用による影響 ※
	営業利益	-	原料相場の急激な上昇を受けた原材料調達コストの悪化
		-	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて減少していた物流費・工場固定費の増加
	当期純利益	+	ケミカル事業譲渡益+6億円、投資有価証券売却益+7.5億円(特別利益)
		-	油脂加工品事業資産の減損損失 ▲4億円(特別損失)

※「収益認識に関する会計基準」の適用による影響

・売上高▲5.3億円 ・営業利益+0.1億円

前連結会計年度について新たな会計基準による組替えを行っておりません。

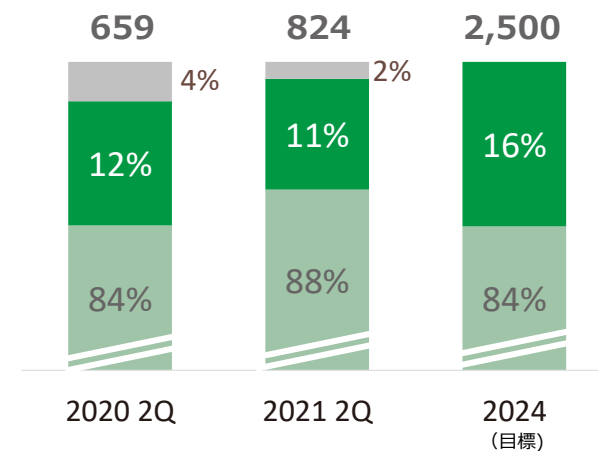
# 2021年度上期 セグメント別業績

## 2021年度上期業績

(億円)	前期	当期	前年比
<b>売上高</b>			
油脂事業	658.6	823.8	+25.1%
スペシャルティフード事業	94.6	101.5	+7.4%
（内 油脂加工品事業）	58.7	61.1	+4.1%
（内 テクスチャーデザイン・ファイン）	35.9	40.4	+12.7%
その他事業	30.0	15.3	▲49.1%
連結合計	783.2	940.6	+20.1%
<b>営業利益</b>			
油脂事業	27.5	1.2	▲95.6%
スペシャルティフード事業	▲2.9	▲2.6	-
（内 油脂加工品事業）	▲2.8	▲3.5	-
（内 テクスチャーデザイン・ファイン）	▲0.1	0.9	-
その他事業	3.4	2.0	▲40.8%
連結合計	27.9	0.6	▲97.9%

## 事業セグメント別 構成比

■ 油脂 ■ スペシャルティフード ■ その他  
 <売上高> 単位：億円



※「収益認識に関する会計基準」の適用による影響

- 油脂事業（売上高▲5.4億円／営業利益+0.2億円）
- スペシャルティフード事業（売上高+0.1億円／営業利益▲0.0億円）
- その他事業（売上高+0.1億円／営業利益▲0.0億円）

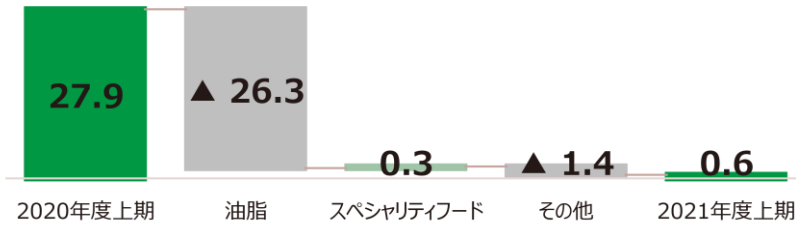
前連結会計年度について新たな会計基準による組替えを行っておりません。

# 2021年度上期 営業利益増減分析

【セグメント別営業利益 増減】

単位：億円

対前年上期実績



【油脂事業 営業利益増減分析】

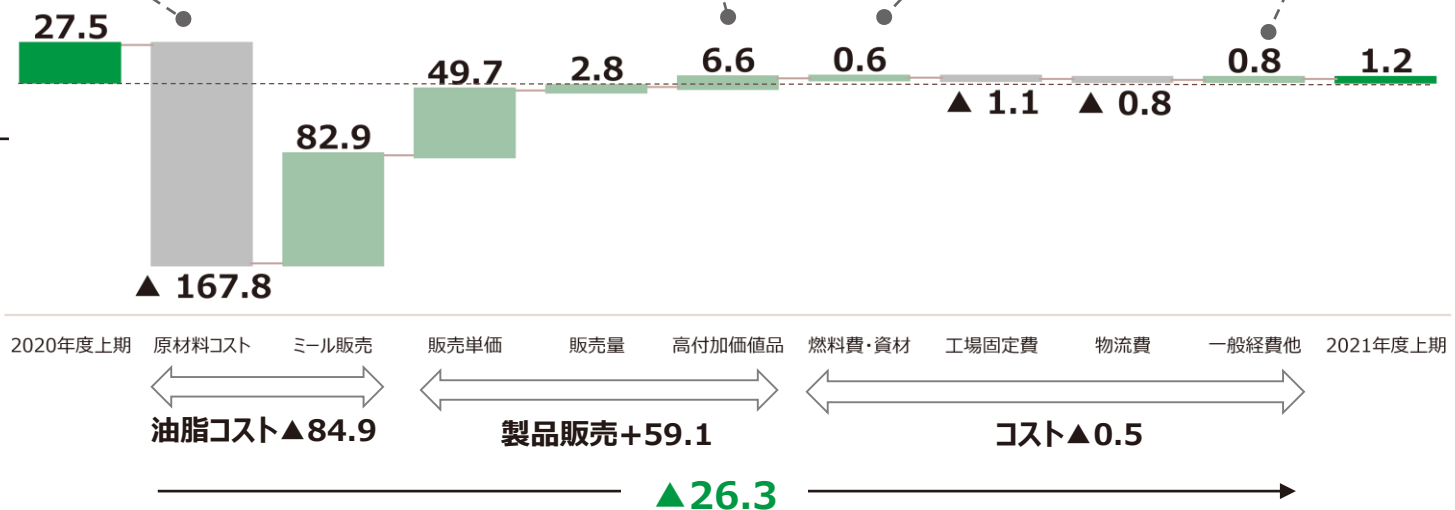
単位：億円

原材料コスト内訳	
大豆	▲76.5
菜種	▲93.0
為替*	+0.2
購入油	▲0.2
他	+1.7

高付加価値品の販売	
家庭用	▲5.3
業務用	+11.9

燃料費・資材内訳	
資材	▲0.1
燃料	+0.4
ユーティリティ	+0.4

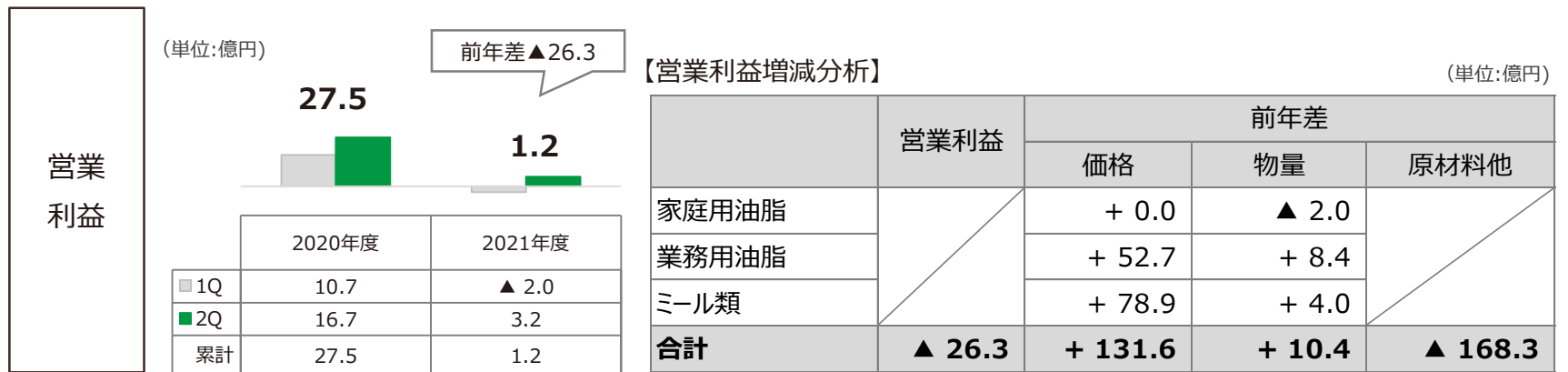
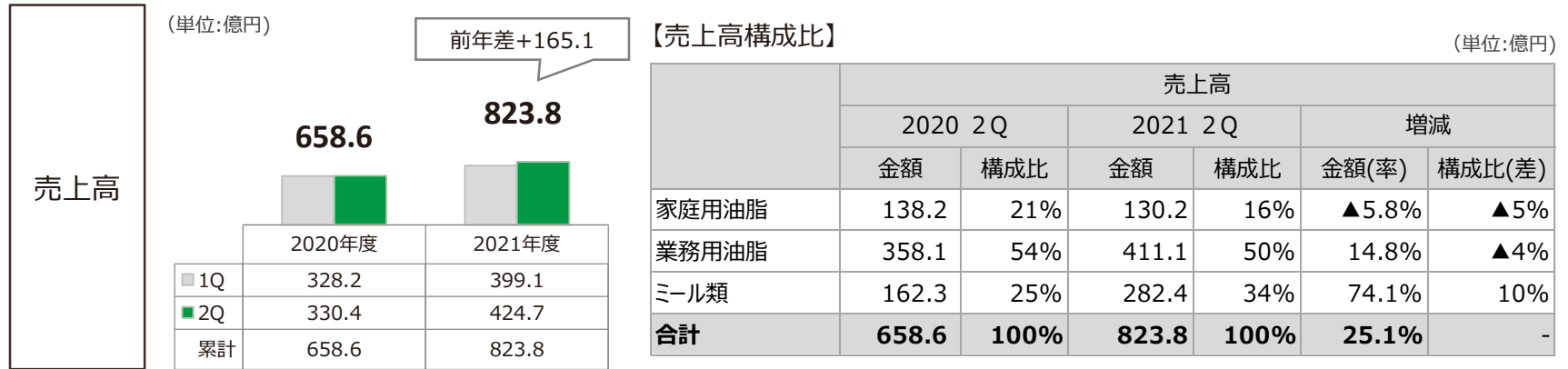
一般経費他内訳	
人件費	▲1.0
広告費	▲1.3
販売促進費	+5.8
その他	▲3.5



\*為替・・・20年度上期:108円/1ドル、21年度上期:108円/1ドル

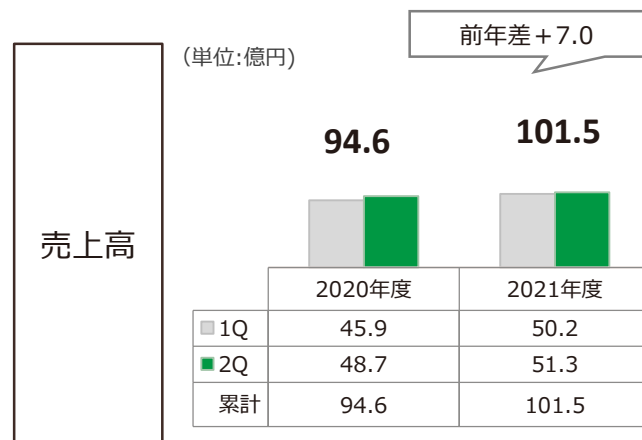
# セグメント別業績：油脂事業

- 売上は、業務用油脂およびミール類の販売量・販売価格の増加に伴い、前年を上回った。
- 営業利益は、原材料価格の高騰を一部ミールの販売、価格改定効果で吸収したが油脂コスト悪化の影響により前年を大幅に下回った。なお、家庭用油脂は汎用品などの単価は改善しているものの、オリーブオイルなどの高付加価値品の単価が下落した。



# セグメント別業績：スペシャルティフード事業

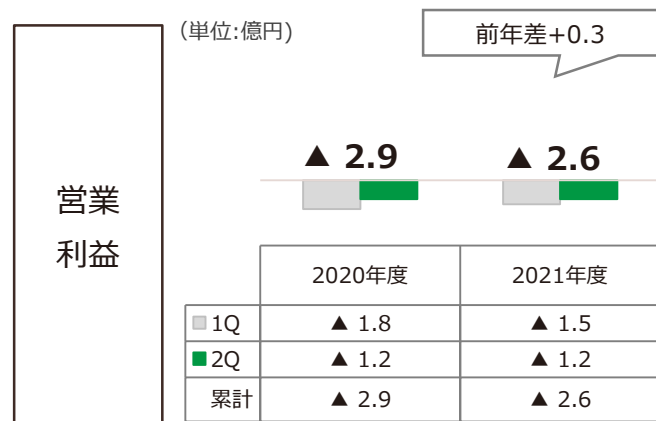
- 売上は、高付加価値品を含むスターチやSOYシート、粉末油脂など、業務用向けの製品が増加した結果、前年を上回った。
- 営業利益は、パーム油等の原料コスト上昇を受けて価格改定に努めたが、補いきれず赤字であった。
- 油脂加工品事業については原料コスト上昇と価格改定の遅れにより採算がさらに悪化し、減損損失▲4億円計上。



【売上高構成比】

(単位:億円)

	売上高					
	2020 2Q		2021 2Q		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額(率)	構成比(差)
油脂加工品	58.7	62%	61.1	60%	4.1%	▲2%
テクスチャーデザイン	33.3	35%	36.9	36%	10.6%	1%
ファイン	2.5	3%	3.6	4%	40.6%	1%
<b>合計</b>	<b>94.6</b>	<b>100%</b>	<b>101.5</b>	<b>100%</b>	<b>7.4%</b>	-



【営業利益増減分析】

(単位:億円)

	営業利益	前年差		
		価格	物量	原材料他
油脂加工品		+ 2.0	▲ 0.2	
テクスチャーデザイン		+ 2.5	▲ 0.1	
ファイン		+ 0.4	+ 0.1	
<b>合計</b>	<b>+ 0.3</b>	<b>+ 4.9</b>	<b>▲ 0.3</b>	<b>▲ 4.4</b>

# B/Sの状況

- 原材料価格上昇による棚卸資産増加はあったが、ケミカル事業譲渡、債権流動化等による資産減少含めて総資産減少

連結貸借対照表

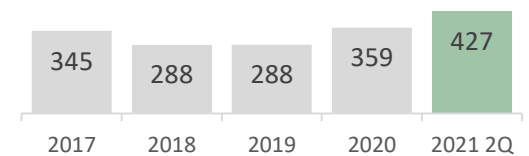
(億円)

	20年期末	21年2Q	増減
<b>流動資産</b>	<b>827</b>	<b>784</b>	<b>▲ 43</b>
現預金	78	25	▲ 54
売上債権	360	302	▲ 58
棚卸資産	359	427	67
その他	29	31	1
<b>固定資産/繰延資産</b>	<b>738</b>	<b>698</b>	<b>▲ 40</b>
有形・無形資産	569	546	▲ 24
投資その他	169	153	▲ 16
<b>資産計</b>	<b>1,565</b>	<b>1,482</b>	<b>▲ 83</b>
	20年期末	21年2Q	増減
<b>負債</b>	<b>620</b>	<b>543</b>	<b>▲ 78</b>
仕入債務	186	107	▲ 79
有利子負債	183	247	64
引当金	51	45	▲ 6
その他	199	143	▲ 57
<b>純資産</b>	<b>945</b>	<b>940</b>	<b>▲ 5</b>
株主資本	895	895	0
包括利益他	46	41	▲ 5
非支配株主持分	4	4	▲ 0
<b>負債・純資産計</b>	<b>1,565</b>	<b>1,482</b>	<b>▲ 83</b>

・ケミカル事業譲渡による連結除外▲35

・原材料価格上昇による棚卸資産の増加

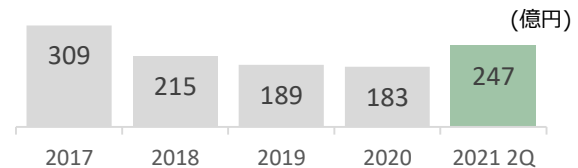
棚卸資産の推移



・設備投資（維持更新、システム投資など） +17  
 ・減価償却 ▲23  
 ・ケミカル事業譲渡による連結除外▲13 他

・投資有価証券売却 ▲17  
 ケミカル事業譲渡に伴う売却 他

・有利子負債の推移



※有利子負債・・・社債と借入金の合計値を使用しております

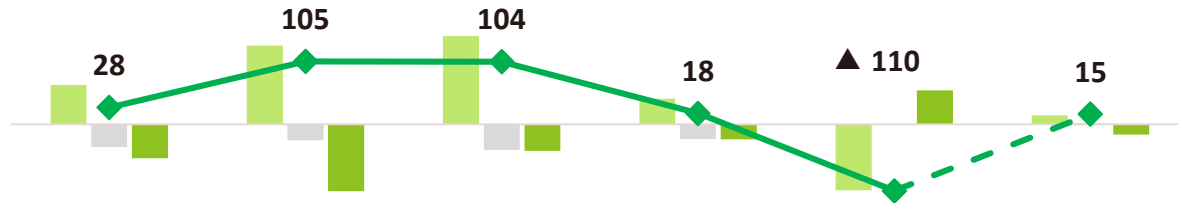


# C/Fの状況

- 上期は原料相場高騰に伴う調達費用および棚卸資産の増加により、営業C/Fが悪化した
- 下期は原料相場高騰に加え為替影響（円安）もあり当面は調達費用の増加が先行するが、価格改定した売掛債権の回収期間に入るため、営業C/Fはポジティブに転換する見込み

## 【キャッシュフロー推移】

(億円)



	2017	2018	2019	2020	21上期	21下期予想
営業C/F	66	131	146	43	▲ 109	
投資C/F	▲ 38	▲ 26	▲ 42	▲ 24	▲ 1	
財務C/F	▲ 56	▲ 111	▲ 44	▲ 25	56	
フリーC/F	28	105	104	18	▲ 110	15

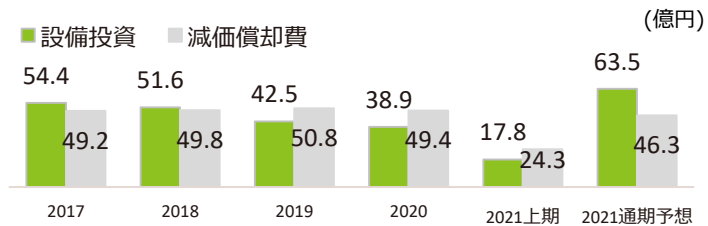
## 【資産効率の改善】

- 上期実績
- ・コア事業への集中（ケミカル事業）
- 下期予定
- ・遊休資産の売却（寮や倉庫など）
  - ・政策保有有価証券の売却

## 【設備投資の状況】

・21年度下期設備投資：

業務効率改善を目的としたシステム投資、設備更新投資など



# Agenda

1

2021年度 2 Q 決算概況

2

2021年度 業績予想および重点取組み

3

参考資料

# 2021年度 業績予想

- 菜種相場やパーム油相場の更なる高騰や菜種新穀原料の油分低下による歩留悪化、為替相場の円安ドル高進行による輸入原料価格の上昇など更なるコスト上昇と価格改定の遅れにより、期初予想を下方修正する。

## 2021年度予想

### 〈連結業績:通期〉

(億円)	2020年度	期初予想	前年比	修正予想	期初予想比
売上高	1,648.2	2,050.0	+24.4%	2,050.0	-
営業利益	66.9	50.0	▲25.2%	26.0	▲48.0%
経常利益	73.7	54.0	▲26.8%	33.0	▲38.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	52.5	50.0	▲4.8%	33.0	▲34.0%
営業利益率	4.1%	2.4%	▲1.6ppt	1.3%	▲1.2ppt
ROE	5.7%	5.2%	▲0.5ppt	3.5%	▲1.7ppt

# 2021年度 セグメント別業績

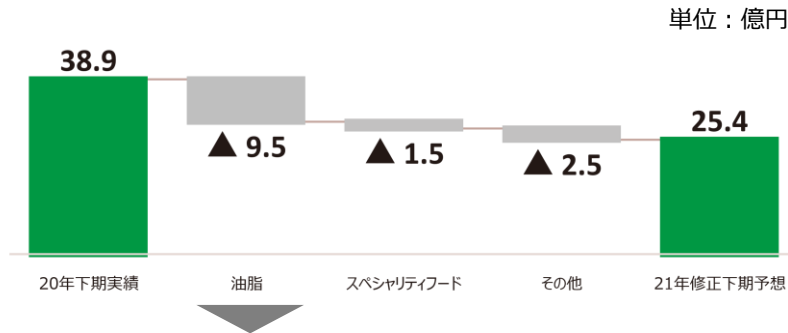
- 油脂事業：価格改定の推進や高付加価値品の拡大とコスト削減を実施するものの、原材料コストを補えず大幅減益
- スペシャルティフード事業：価格改定の遅れと原材料コスト悪化により大幅減益

## 2021年度予想

(億円)	2020年度	2021年度 期初予想	前年比	2021年度予想		
				2021年度 修正予想	前年比	期初予想比
<b>売上高</b>						
油脂事業	1,389.0	1,806.0	+30.0%	1,815.0	+30.7%	+0.5%
スペシャルティフード事業	196.1	226.0	+15.2%	216.0	+10.1%	▲4.4%
（内 油脂加工品事業）	121.3	132.0	+8.8%	128.6	+6.0%	▲2.6%
（内 テクスチャーデザイン・ファイン）	74.8	94.0	+25.6%	87.4	+16.8%	▲7.0%
その他事業	63.1	18.0	▲71.5%	19.0	▲69.9%	+5.6%
連結合計	1,648.2	2,050.0	+24.4%	2,050.0	+24.4%	-
<b>営業利益</b>						
油脂事業	62.2	43.0	▲30.9%	26.5	▲57.4%	▲38.4%
スペシャルティフード事業	▲2.3	5.3	-	▲3.5	-	-
（内 油脂加工品事業）	▲4.4	▲1.8	-	▲7.4	-	-
（内 テクスチャーデザイン・ファイン）	2.2	7.1	+227.4%	3.9	+81.0%	▲44.7%
その他事業	6.9	1.7	▲75.4%	3.0	▲56.5%	+76.5%
連結合計	66.9	50.0	▲25.2%	26.0	▲61.1%	▲48.0%

# 2021年度業績下期予想 営業利益増減分析

【セグメント別営業利益 増減】



(対前年下期実績)

【油脂事業 営業利益増減分析】

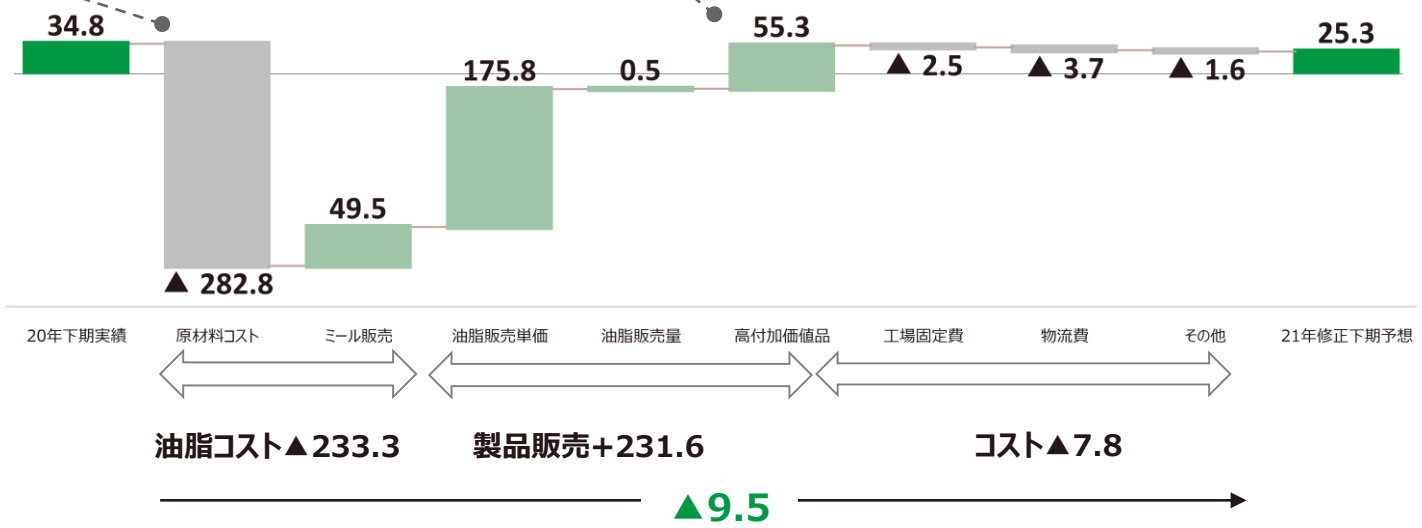
単位：億円

原材料コスト内訳

大豆	▲64.2
菜種	▲153.9
為替*	▲22.6
購入油	▲20.1
他	▲22.1

高付加価値品の販売

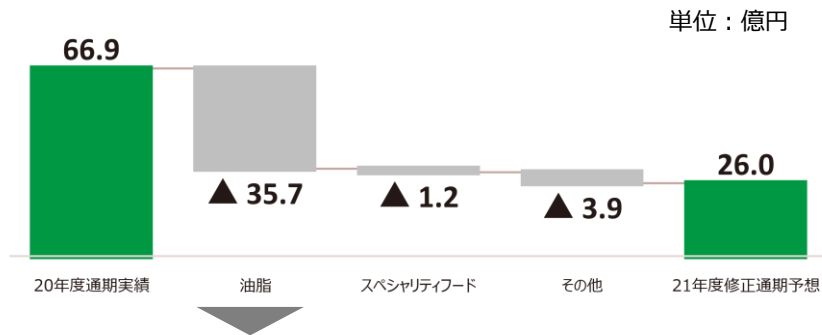
家庭用	+5.2
業務用	+50.1



\*為替・・・20年下期:105円/1ドル、21年修正下期予想:112円/1ドル

# 2021年度業績予想通期 営業利益増減分析

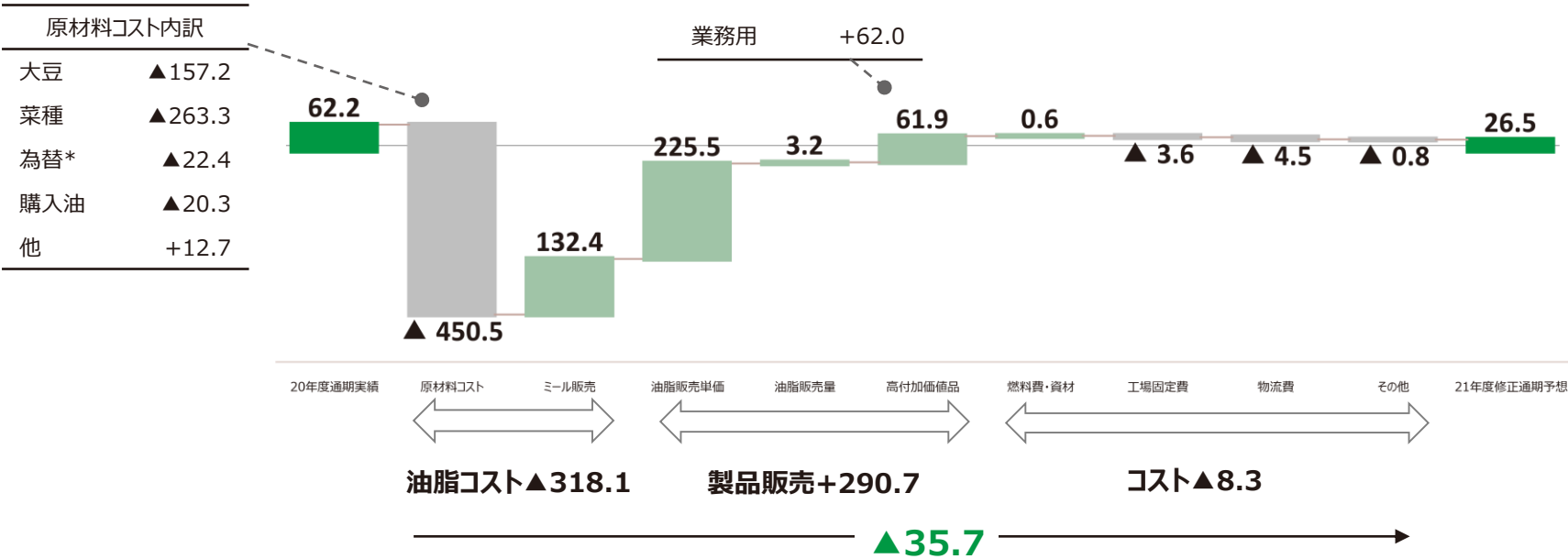
【セグメント別営業利益 増減】



(対前年通期実績)

【油脂事業 営業利益増減分析】

単位：億円



\*為替・・・20年度通期実績:107円/1ドル、21年度修正通期予想:110円/1ドル

# 2021年度 原材料動向

## ■ 外部環境：原料・為替状況

- 期初想定と比較して大豆の原料相場は良化しているが、ミールバリューと為替の悪化に加えてレートの上昇により原料調達価格は高止まりとなっている。一方で、菜種は原料相場が期初想定より悪化、またカナダの干ばつによる品質悪化などの影響で総じて原料調達価格は大幅な悪化となっている。

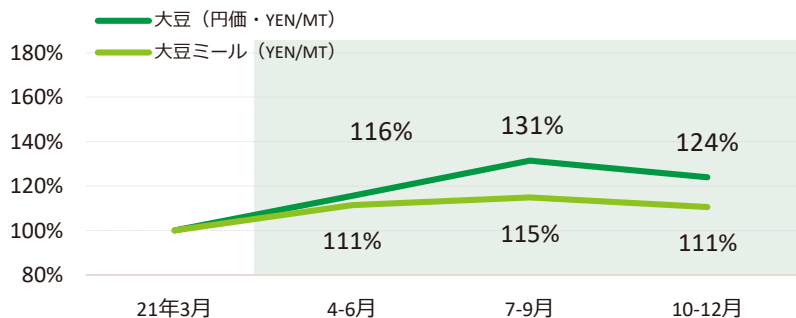
	21'1Q		21'2Q		21'3Q		21'4Q	
	実績 (前年)	対前年差	実績 (前年)	対前年差	実績 (前年)	対前年差	前提 (前年)	対前年差
大豆 ¢ /Bu <sup>※2</sup>	1,391.6 (891.2)	+500.4	1,497.3 (851.2)	+646.1	1,358.6 (931.7)	+426.9	1,230.5 (1137.2)	+93.3
菜種 C\$/MT <sup>※3</sup>	737.7 (463.3)	+274.4	864.7 (465.1)	+399.6	885.4 (494.1)	+391.3	941.4 (568.3)	+373.1
ミールバリュー-%	63.8 (66.6)	▲2.8	55.9 (68.2)	▲12.3	53.2 (65.6)	▲12.4	51.3 (67.8)	▲16.5
海上運賃 us\$/t <sup>※4</sup>	58.2 (48.5)	+9.7	68.4 (48.4)	+20.0	89.6 (50.0)	+39.6	89.3 (48.4)	+40.9
為替レート <sup>※5</sup>	107.0 (110.0)	▲3.0	110.5 (108.6)	+1.9	111.1 (107.2)	+3.9	114.1 (105.5)	+8.6

※1: 搾油原料の買付けは基本的に約3カ月前の時点にて行っており、本図では各期の業績に影響のある期間相場の平均値を示しています

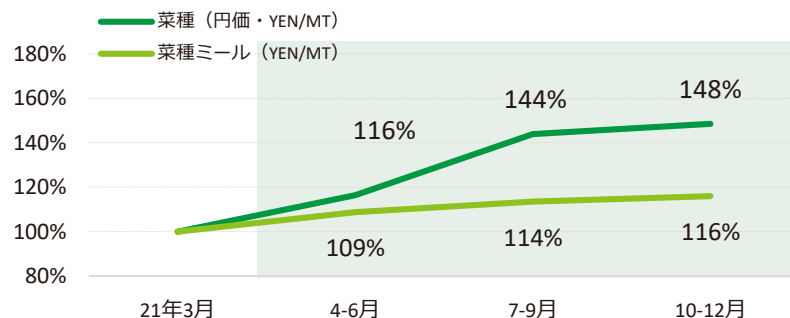
※2: シカゴ相場 ※3: ウィネベグ相場 4Qは10/1以降の平均値 ※4: US Gulf-Japan PANAMAX ※5: 為替TTSレート

## ■ 当社実績：原料価格推移

【原料価格推移：大豆・大豆ミール】



【原料価格推移：菜種・菜種ミール】



# 2021年度 価格改定状況

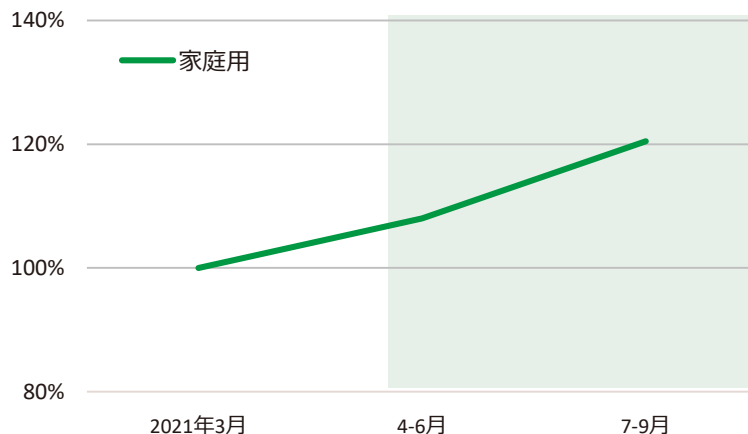
## ■ 価格改定

- 油脂で4回、油脂加工品で1回の価格改定を発表
- 油脂事業の価格改定の進捗は、業態によってばらつきはあるが、当初想定よりもやや遅れている。

油脂		油脂加工品	
改訂日	対象/額	改訂日	対象/額
2021/4/1	家庭用/業務用/加工用油脂 30円/kg 以上	2021/4/1	業務用マーガリン25円/kg
2021/6/1	家庭用/業務用/加工用油脂 30円/kg 以上		業務用ショートニング30円/kg
2021/8/2	家庭用/業務用/加工用油脂 50円/kg 以上		※業務用については追加の価格改定を実施
2021/11/1	家庭用/業務用/加工用油脂 30円/kg 以上		

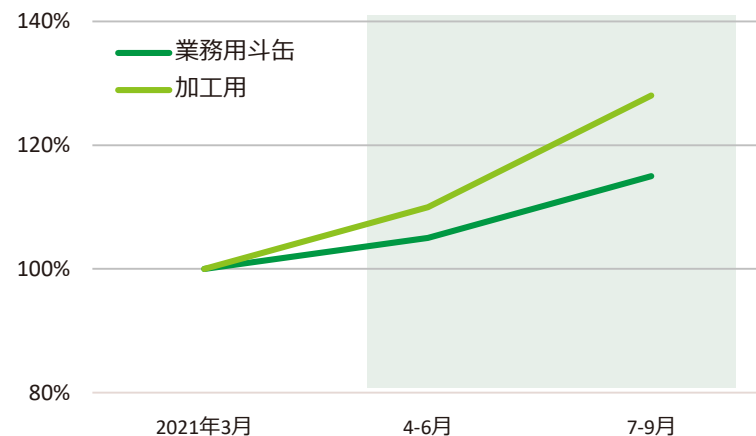
## ■ 価格改定推移（外部データ）

【家庭用油脂製品】



※2021年3月を1として算出  
出典：INTAGE SCIデータ（油脂市場：2021年3月～2021年9月）  
当社ベーシックオイル平均単価トレンド

【業務用油脂製品】



※2021年3月を1として算出  
出典：日経相場情報より



# 成長戦略: 高付加価値品の拡大

- 油脂事業においては、家庭用のオリーブオイルは、競争環境の激化に伴う価格低下や数量減により、前年を下回った。業務用の長徳®シリーズは、コロナ影響の反動に加え、価格改定の際に長持ち油としてコストメリットを訴求し、売上は好調に推移した。
- スペシャルティフード事業においては、経時劣化抑制、食感改善機能のあるスターチのネオトラスト®や、ファインのビタミンK2が前年に引き続き伸長した。また主要販売先である北米の外出需要が回復したことからSOYシートの売上高も前年を大きく上回った。
- 主要原料である大豆・菜種およびパーム油、オリーブ油などの購入油の原料価格上昇の影響を受け、粗利益率は悪化した。

## 【高付加価値品推移】

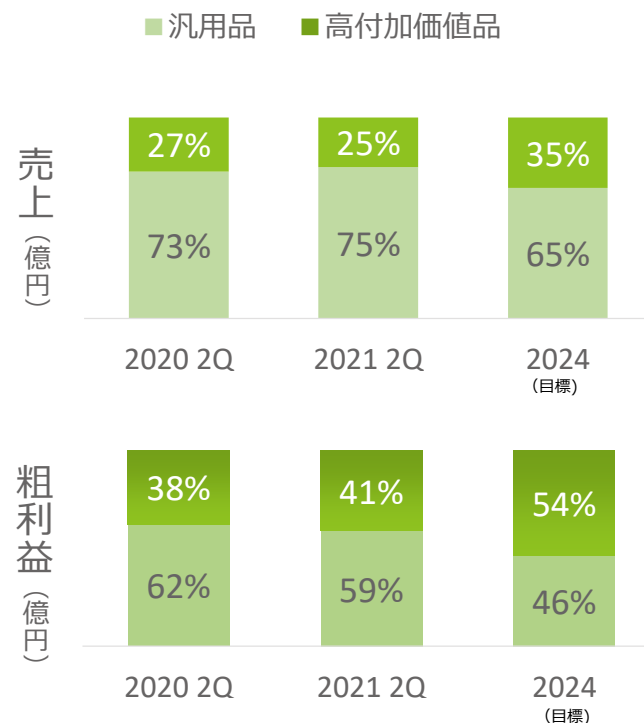
単位：億円

		2020年度 2Q	2021年度 2Q	対前年 増減率
高付加 価値品	売上高	<b>210.4</b>	<b>231.9</b>	<b>+10.2%</b>
	粗利益	<b>61.6</b>	<b>54.2</b>	<b>▲11.9%</b>
	粗利益率	29.3%	23.4%	<b>▲5.9ppt</b>

## 【セグメント別売上高】

		2020年度 2Q	2021年度 2Q	対前年 増減率
油脂事業	家庭用	<b>71.4</b>	<b>64.6</b>	<b>▲9.5%</b>
	業務用	<b>96.6</b>	<b>117.1</b>	<b>+21.2%</b>
	合計	<b>167.9</b>	<b>181.7</b>	<b>+8.2%</b>
スペシャルティフード事業		<b>42.5</b>	<b>50.3</b>	<b>+18.4%</b>
高付加価値品合計		<b>210.4</b>	<b>231.9</b>	<b>+10.2%</b>

## 【高付加価値品 構成比】



# 成長戦略：プラントベースフード(PBF)※1

- 徹底的に「おいしさ」にこだわりながら、同時に「健康」や「環境負荷の低減（低負荷）」の実現に向けてアプローチ

## Violifeの販売状況

### <家庭用>

- 9月の発売以降、大手小売店などの採用が進んでいる
- 12月からは大手ECサイトでの販売を開始予定

### <業務用>

- 10月下旬から販売開始。採用に向けて取り組み強化

## 日経BP「日経トレンドィ」

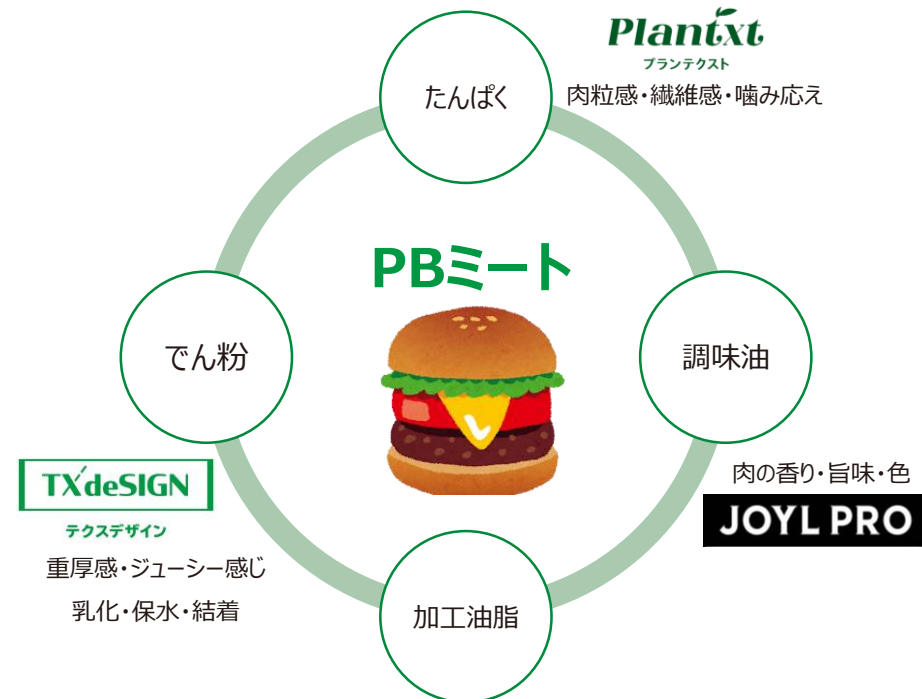
2022年ヒット予測ランキング  
「ビオライフ 植物生まれの“ビオバター”  
を含む「植物性バター」

27位



## 今後の取り組み

- プラントベースミート (PBミート) ※2などの新しいニーズに対応した課題解決などの開発&販売
- 当社の「あぶら・でんぷん・たんぱく」の組み合わせで、おいしさを再現。外食チェーンで採用されている



※1 バターやチーズなどの乳製品を植物性の原材料で代替した製品  
※2 植物性の代替肉

# 成長戦略：テクスチャーデザイン

## テクスチャー素材

- CVSのスイーツや惣菜パンに評価され採用
- TXdeSIGNシリーズは販売開始し、提案を進めている

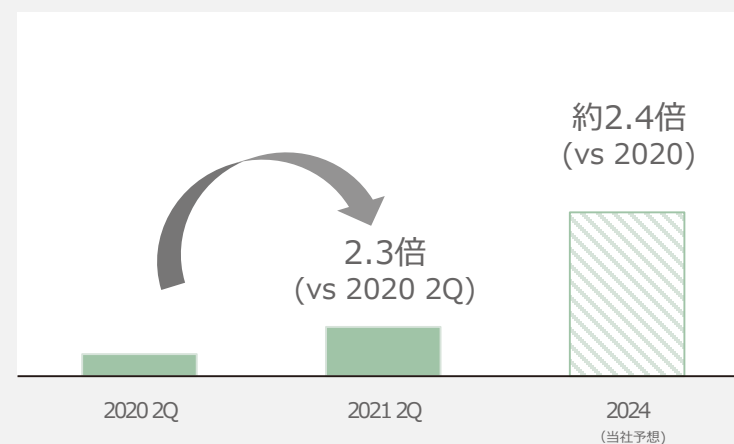


## Soyシート

- 北米を中心にデリバリーや持ち帰り需要をとらえ、多くのお店に採用。コロナ後の経済活動再開以降も好調に推移
- 中東など地域からの需要も増加



## Soyシートの売上実績・目標



社内データ

# 構造改革:

## バリューチェーン&業務プロセス改革

### 生産体制の一部変更

#### 概要

- 若松工場の生産工程の一部（精製工程）を当社神戸工場などに移管：2022年3月まで
- 賃借地である若松工場の土地の取得によるタンク基地化
- 大豆たん白、食品(Soyシート)の生産は継続

#### 目的

- 第六期中計の戦略目標の一環として、生産拠点の再構築による最適化
- 九州地区の物流ネットワークの拠点として、安定供給の責務を果たす

### 日清オイリオグループ株式会社との取り組み状況

- 西日本エリアにおける搾油合併会社設立の検討中

## 油脂加工品収益基盤強化

### 2023年度 まで

- 黒字化にむけて、収益性改善に取り組む
- 油種・販売品種数（SKU）削減：  
油種の削減など川上の工程も含めたSKU削減により、採算性の向上を図る
  - 生産ラインの効率化：  
生産ラインをマルチタスク化し、より効率的な生産体制を構築
  - PF社※1・PVO社※2とのシナジー効果の創出

※1 Premium Fats Sdn:マーガリンやショートニング製品（製菓・製パン用途）  
※2 Premium Vegetable Oils Sdn Bhd:油脂製品（チョコレートやアイスクリーム用途等）

# 経営基盤強化:サステナビリティ

- 国際社会の動向を踏まえ、企業理念の実現、SDGsの課題解決に向け、事業を通じたESGの取り組みを推進

## ESGに関する取り組み

- 2030年度 CO2排出量削減目標

**50%**削減 (FY2013対比)

- 2021年9月  
「国連グローバル・コンパクト」に署名、  
グローバルネットワークジャパン加入



- 製品を通じたESGへの貢献  
紙パック発売後、ステークホルダーからのポジティブな反響  
キー局、ローカル局、全国紙での報道  
お客さまにおける採用事例の積み上げ



## 国産オリーブの取り組み

- 神戸オリーブ試験圃場 初のオリーブ収穫・搾油を実施  
国産オリーブ生産の知見を蓄積



搾油後  
のオイル

2019年3月の植樹から順調に生育し、2年7ヶ月で初の収穫

神戸工場にて自社の搾油機を使用し、収穫直後の果実から良好な品質のオイルを搾油

## SDGs関連技術特許出願の取り組み

- 特許出願のSDGs指向性評価指標  
「Japio-SDGs特許インデックス」企業ランキング  
食料品等製造業 第3位にランクイン



Japio-SDGs特許インデックスによる企業ランキング

独自開発したAI技術を活用し、出願数に依存せずに特許出願のSDGs指向性を出願人ごとに評価できる指標（Japio-SDGs特許インデックス）を開発しました。2020年に日本特許庁から発行された公開公報に基づく指標ランキングを掲載しました。

<https://transtool.japio.or.jp/work/sdg/>  
(Japio知財AI研究センター)

- 特許出願のSDGs企業 月間ランキング



「飢餓をゼロに」

8月月間ランキング **10**位

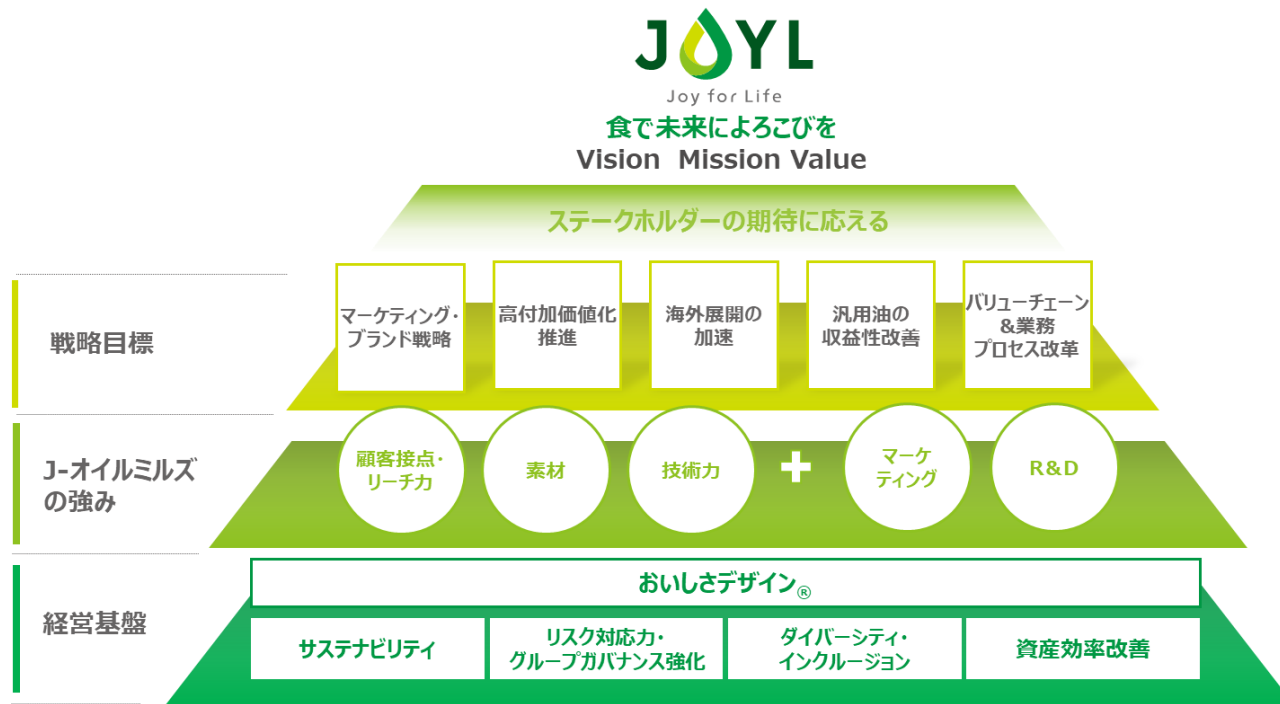
<https://transtool.japio.or.jp/work/sdg/>  
(Japio知財AI研究センター)

# 今後の取り組み

- 2021年度下期計画達成に向け、特に価格改定推進や高付加価値品の拡売、原料マネジメントを実施

- 価格改定推進
- さらなるコストダウン
- 高付加価値品の拡売
- 原料マネジメント

- 2022年度以降は、引き続き「JOYL」ブランドの構築を推進など、中計で掲げた成長に関する戦略目標を着実に実行していく

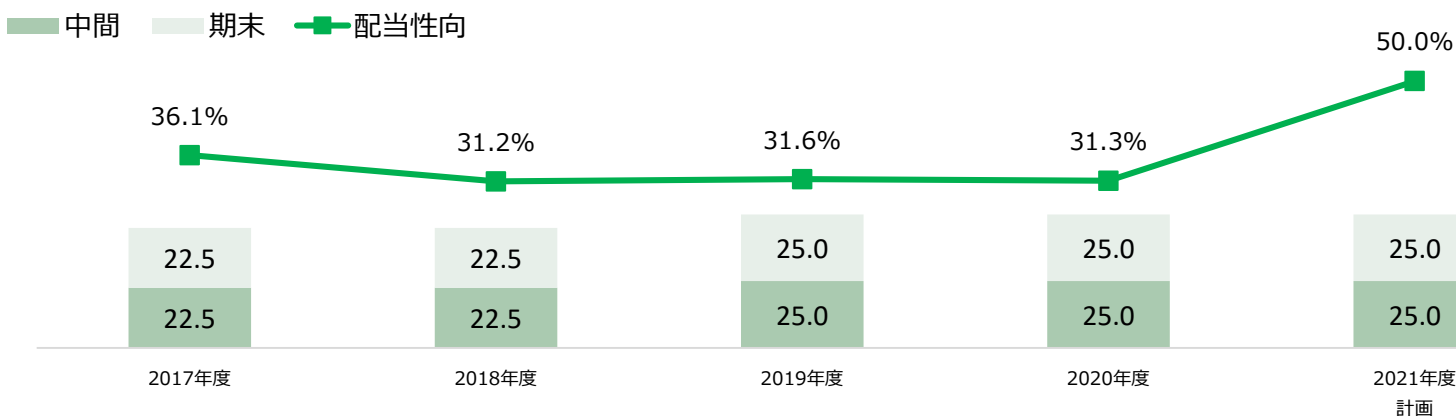


# 主な経営指標

- 2021年度の配当金は、期初予想を維持する。

	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 予想	2024年度 目標	2030年度 目標
売上高	1,834	1,868	1,782	1,648	2,050	2,200	2,500
営業利益	40	57	67	67	26	110	240
営業利益率 (%)	2.2%	3.0%	3.7%	4.1%	1.3%	5.0%	9.0%以上
ROE (%)	4.9%	5.6%	5.9%	5.7%	3.5%	8.0%	12.0%以上
ROIC (%)	2.4%	3.6%	4.3%	4.1%	1.5%	5.5%	8.0%
EPS (円) ※	124.75	144.20	158.10	159.62	100.09	260	500以上
D/Eレシオ	0.42	0.30	0.26	0.24	0.29	-	0.50以下
CCC (日)	117日	112日	114日	124日	115日	-	-
一株当り配当額(円)※	45	45	50	50	50	-	-
配当性向	36.1%	31.2%	31.6%	31.3%	50.0%	-	40%

※株式会社・分割換算後



# Agenda

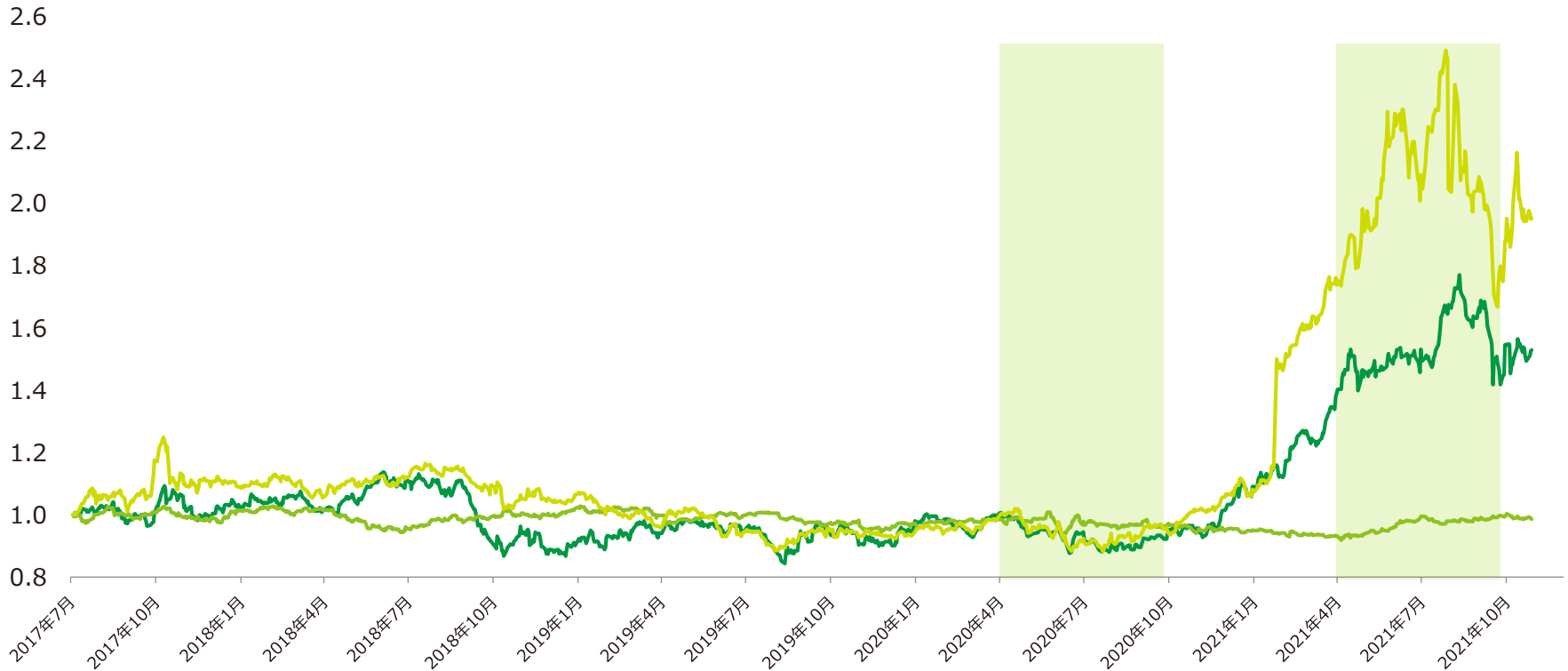
- 1 2021年度 2 Q 決算概況
- 2 2021年度 業績予想および重点取組み
- 3 参考資料



# 大豆、菜種、為替(米ドル)の相場動向

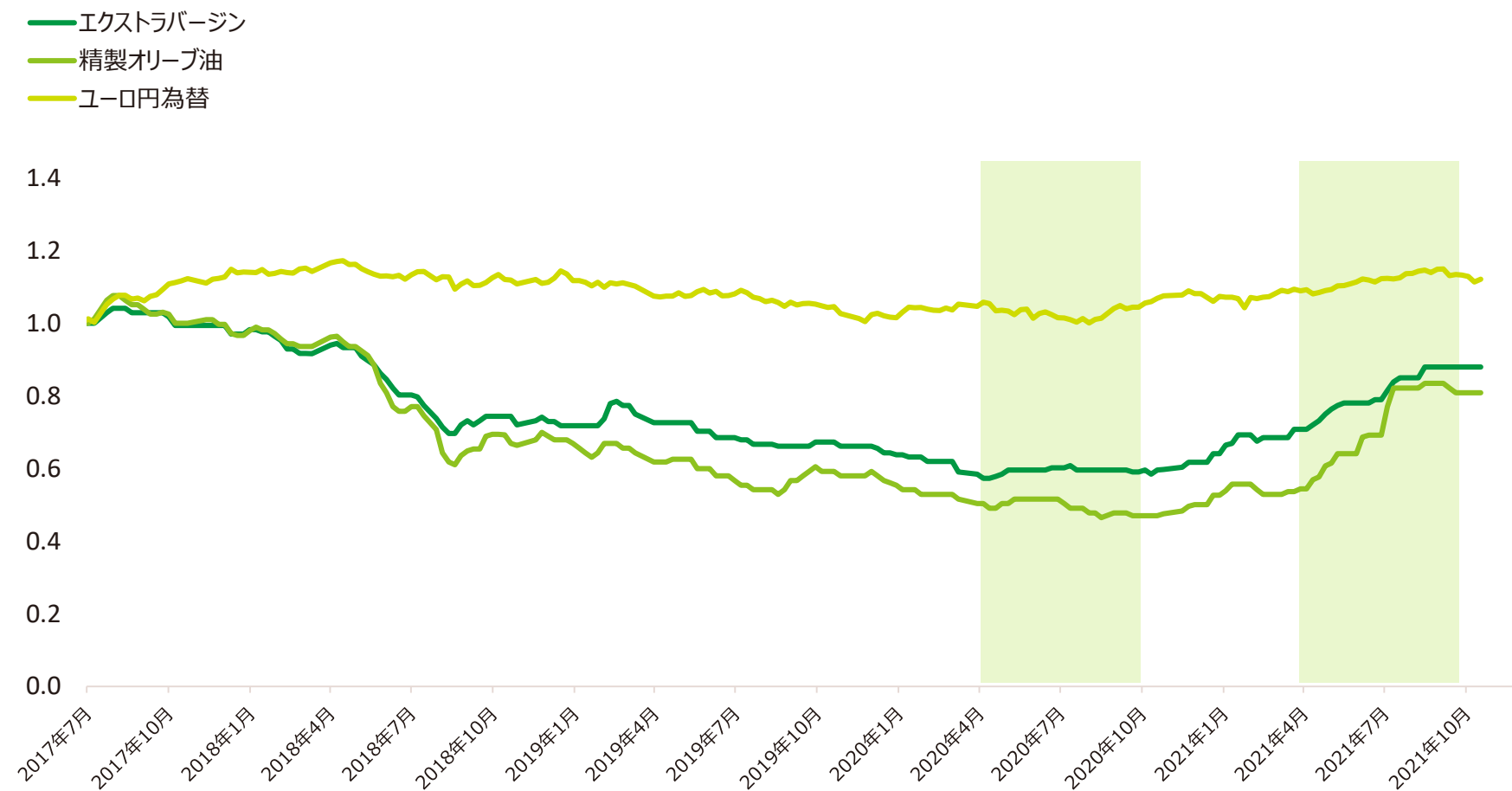
\*原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2017年4月を1とする (図中では2017年7月を1となる))

- シカゴ大豆
- 東京円為替
- ウィネベグ菜種 (US\$ベース)



# オリーブ、為替(ユーロ)の相場動向

\*原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2017年4月を1とする (図中では2017年7月を1となる))



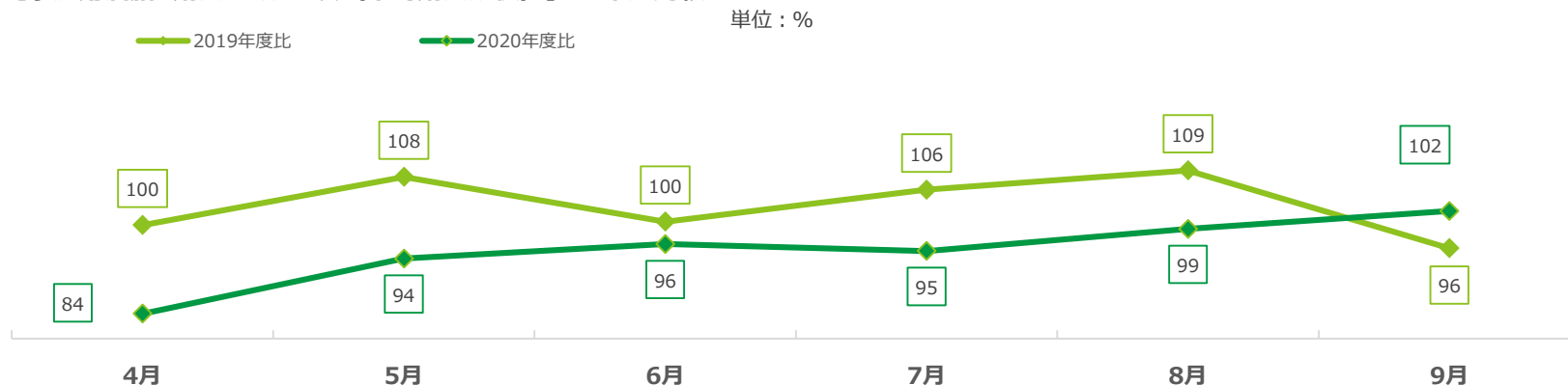
# ミールバリューの動向



\* シカゴ大豆定期1ブッシェルから産出する大豆油と大豆ミールの価値の合計と大豆1ブッシェルの価格の差

# 2021年度 市場環境

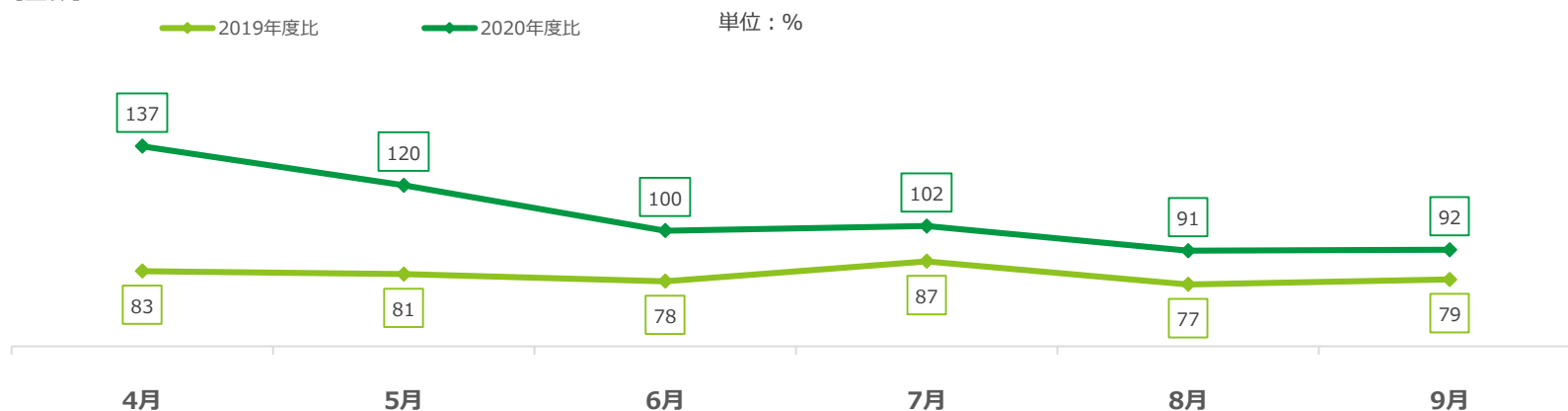
【家庭用油脂 購入金額ベース（平均購入規模）】 ※単月比較



※インテージ社 SCIデータに基づいた当社推定

【業務用油脂 外食産業市場動向調査 売上高】 ※単月比較

【全体】



※出典：日本フードサービス協会 外食産業市場動向調査

